

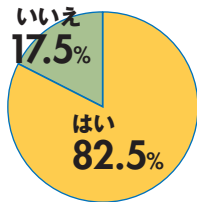
問題その3 子供を育てることはデメリットなの？

悪い面ばかり考えずに、
“子供を育てる”喜びをもっと知って!

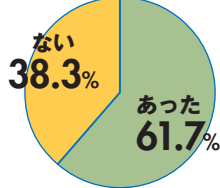
子供がいない人が感じる不安と
実際に育てている人との間に
大きなギャップが

子供を産みたいと思っ
ている人でも、子供を育て
ることに対する不安を感じ
ている人が大半。今の生活
を維持できなくなるのはイ
ヤ、「悪いニュースばかり
で子供を持つ喜びが分か
らない」といった声が多く
あります。でも、本当に
子供を育てることって、そ
んなにデメリットばかりな
の？
大変なことがあっても
子供がいてよかったと
感じている人が大半
子供がいない人の意見を
見ると、大変なことはあつ
ても子供がいてよかったと
思っている人がほとんど
キングマザーからは、「周
りの協力なしでは無理。日

Q 子供がいる人へ質問
パートナーは子育て
に協力的？



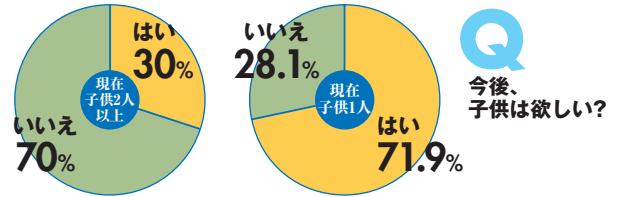
Q 子供がいることで
パートナー間の変化は
あった？



- 家のことを手伝ってくれるように。子供のことを通して夫婦の会話が増えた(27歳・子供1人)
- きずなが深まった。子供を守っていくんだという気持ち(29歳・子供1人)
- 夫が子供嫌いでいらなると言われ落ち込み悩んだが、産まれたらすこいかわいがりっぷりでこんな面もあったのかと見直した。お互い思いやり助け合う気持ちができてもっと仲良くなれた(37歳・子供1人)
- 正直、子供に愛情が向いてしまい、パートナーに対する興味が薄れた(27歳・子供1人)
- “子育て”という共同作業で、それまで以上に信頼関係が深まった。子供のことでケンカになることもあるけれど、お互いが真剣に子育てを考えているからだ、いつも思いつきり言い合いをします(38歳・子供1人)
- 家族としての感情は深まったが、男女という関係ではなくなった(32歳・子供2人)

Q 子供を育てる上で、変わったことは何？

- 自分の親に対する思い。子供を産んで育てることがこんなに大変だとは知らなかったし、愛情がないととても無理だと思ったので、今からでも親孝行をしようと思うようになりました(27歳・子供1人)
- 仕事は仕事でしっかりやって、「子供のせいで休みがち」とか言われないよう、以前より責任感は強まった(29歳・子供1人)
- 地域とのつながりなど、自分がこれまで見えていなかったことが見えるようになった(30歳・子供1人)
- 以前は周りのことを考えずつっ走っていた。今は歩く速度もゆっくり。信号もエレベーターも待つのが当たり前。そして車いすの人やお年寄りの気持ちが分かるようになった(30歳・子供1人)
- 今まであまり子供が好きではなかったけど、出産を機に、ほかの子供もかわいと思えるようになった。24時間、ものすごく自己中心的な子供の相手をしているので、少しは忍耐強くなった!(31歳・子供1人)
- 人生観。自分のためにだけ時間を使う生活はゆとりがあるし、自由で楽しいと思っていたが、子育てをしてみると、新しい生活の楽しさや大変さ・発見は、自分自身にとっても有意義だと思えるようになった(31歳・子供2人)
- 笑顔が増えた。いろんなことに対する考え方が変わった。応用がきくようになった。妥協が多い(33歳・子供1人)



子供がいることの楽しみ・喜びは?

守るべきものがある、絶対的なものがあるというのは、**思っていた以上に生きがい**になります。泣いてる顔もカワイイの。ホント不思議ですよー(24歳・子供1人)

仕事よりも数十倍大変な子育て。けれど、子供とのかわりの中で毎日幸せを感じられる。**成長を喜び、親と一緒に成長**できる。何より一緒にいて楽しい(29歳・子供1人)

産んでみると世界は広がる喜びは倍増するし、生きているってすばらしいことを実感。少子化問題では現代社会の子育てのマイナス面ばかりが論じられることが多いですが、**子育てって本当に楽しいしやめられない。**この喜びを分かち合える社会であってほしいと思います(33歳・子供1人)

大人になると「当たり前」で通り過ぎていたことのすべてが新鮮で、人間のまっさらな状態ってこうなんだなって感じられる。**できることが増えるたびに心が和む**(30歳・子供2人)

やっぱり子供の日々の成長です。**子供がたくさんいたらもっと楽しい**だろうって思います(29歳・子供1人)

どんなに疲れていても、日々成長するわが子を見るだけで癒される。**上司に嫌なことをされても、家で待っていてくれる子供を見ると、ちっぽけな悩みだと**思えるように(31歳・子供1人)

生活にハリができた。無条件で愛すべき存在がいて、成長していく姿を目の当たりにできることは本当に幸せ(35歳・子供1人)

「いとおしいってこういうことなんだなあ」って子供ができて初めて実感しています。**自分の支えとなる人が夫以外に**いるってステキなこと。早く2人目も欲しい(32歳・子供1人)

気持ちが温かくなります。毎日発見の連続で、**大人同士の関係から離れていられる時間が増えます**(32歳・子供1人)

少子化・男女共同参画担当 内閣府特命担当大臣 猪口邦子さんにインタビュー

育児に関する保護者の役割は大きいからこそ
共有できる負担は社会で対応する必要がある

猪口邦子さんが少子化対策担当の初の専任大臣である内閣府特命担当大臣に任命されて約1年。少子化の現状について感じることを聞きました。

「多様な政策の中から少子化分野を浮き上がらせ、子育て支援が重要課題であることを理解してもらったところから始まりました」と猪口さん。さまざまな人と対話の中で、今まで悩みや苦境といった国民の声が、いかに届いていなかったかを実感したそう。「政府が行う対策が伝わっていない現状にも問題が。対話プロセスを含めて、もっと問題意識を共有していくことが必要だと感じています」

悩みや苦境といった国民の声が
いかに届いていないかを痛感



PROFILE 猪口邦子さん

1952年生まれ。エール大学政治学博士 (Ph.D)。上智大学法学部教授、軍縮会議日本政府代表部特命全権大使を経て、2005年9月、衆議院議員。同年10月より内閣府特命担当大臣 (少子化・男女共同参画担当)。2児の母でもある

6月に決定された「新しい少子化対策」では、子供の年齢順に対策を整理したり、少子化対策の推進が分かりやすく系統たてられたり、「少子化も晩婚も、根底には長時間労働の問題が、労働に時間を取られすぎること、出会いがなかったり、子育ての両立の問題が起きている」と、民間の企業に労働時間の短縮などを義務化することは難しいのが現実。「法改正や支援など、国が改革を進める」は必ずしも必要だと思っています。

国が改革を進めるのはもちろん
企業・個人の意識の改革も重要

もっとアピールする必要あり!
行政が行う「少子化対策」の現状は?

「次世代法」の施行や、厚生労働省がまとめた2007年度の予算の概算要求では少子化対策費が約3割増となるなど、少子化対策にも少しずつ明るみが見えつつある。しかし、「中小企業子育て支援助成金」や「ベビーシッター費用などの補助や育児休業取得者の代替要員確保のための助成金などを盛り込んだ「両立支援レベルアップ助成金」など、企業に対する支援も拡充の方向に。「しかし法律が整備されても、結局は企業の風土が改革されなければ意味がありません。まずはそれぞれの企業でのトップダウン、両立支援が経営戦略として企業経営にプラスになるということをもっとアピールしていかないといけないと考えています」(安田さん)

行政の少子化対策の動き

- 2006年4月から児童手当制度を拡充。10月からは出産育児一時金の支給額が30万円から35万円に。2007年4月からは0～2歳までの児童手当の加算や妊娠中の検診費用の補助、不妊治療の助成を現在の年間10万円から20万円に増額を検討
- 経済産業省では、内閣府とともに社内に託児所を設置する企業の法人税を減額するよう2007年度税制改革で要望
- 2007年度から全国すべての公立小学校で、放課後も児童を預かる「放課後教室」実施の決定



「一般事業主行動計画」を策定し、2年から5年の行動計画を達成するなど、一定条件をクリアし、労働局から認定された企業は、商品や広告などに、「次世代認定マーク」を使用することができるように。マークを取得したいと考えている企業は届け出をした企業の2割程度だそう